

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容登録)

No. 6

科目タイトル	化学物質総合管理学4		
科目概要	欧州に始まった製品環境政策が、世界中に広がりつつある。各国の企業はこれに対応できなければ市場から閉め出されるという、まさにグローバル化の波が国内市場にまで押し寄せてきている。本講義では、欧州のみならず、世界のグローバル化の動向と、その企業経営へのインパクトについて理解を深める。主として、製造業側の視点から、新しい環境規制の要求事項や国際標準化の動きを分析し、準備する側の留意点を明確にすると共に、ビジネスへのプラスおよびマイナスのインパクトを考察する。		
共催機関名	日立製作所	レベル	【専門・中級】
講義枠	水 18:30~20:00		

サブタイトル	No.	講義タイトル	講義概要	講義日	講師名	所属
環境マネジメント	1	環境ポリシーの変遷	現場環境から製品環境へのパラダイムシフトと企業の取り組みの変化について解説。また、本科目の内容と理解の到達点の全容を鳥瞰する	9月1日	市川芳明	日立製作所
	2	ISO14001と環境マネジメント	企業における環境マネジメントの取り組み方の原則について理解を深める。環境側面をどのように捉え、どのように改善できるのか論じ、過去と現在の取り組みの変化についても触れる	9月8日	小林史郎 氏	
製品環境ポリシー	3	製品環境ポリシーとEUの仕組み	IPPからEuP, CPPIにつながる製品環境ポリシーの背景を解説。また、EUの法制化の仕組みと、組織について触れる	9月15日	市川芳明	
	4	製品化学物質規制	欧州のELV, RoHS指令などの製品化学物質規制に対処するために、経営者の最新課題について解説する	9月22日	加藤裕康 氏	
	5	WEEE/RoHS指令各論	WEEE & RoHS規制に代表されるグローバル規制の状況と対応の具体的な配慮事項を解説	9月29日	谷 光清	
	6	EuP枠組み指令	EuP(エコデザイン枠組み指令)を内容と企業経営へのインパクトについて解説する	10月6日	佐々木智代 氏	
	7	システムソフトウェア製品の環境配慮	システムソフトウェア製品の環境配慮への取り組み方法を解説	10月13日	谷 光清	
	8	世界の化審法とREACH	化審法の世界的な変遷(ハザード重視からリスク重視への変化、化学物質からArticleへの拡大)を踏まえ、REACHの内容と企業経営へのインパクト(ビジネスリスクとビジネスチャンス)について解説する	10月20日	小林史郎 氏	
	9	製品環境規制とPLM	欧州以外の各国の製品規制の動向も踏まえ、製品環境リスク管理、PLMの観点から企業が取り組むべき課題と戦略を示す	10月27日	弘重雄三 氏	
国際標準化	10	DfEの国際標準化動向	DfEの基礎的な考え方およびISO14062, JEITAのDfEガイドラインをはじめとする国内の事情、エコラベルタイプⅢ, ECD(Environmental Conscious Design)を巡るIECの国際標準化競争などについて解説する	11月10日	市川芳明	
	11	GHSとMSDSの国際標準化動向	GHSやMSDS国際標準化の内容と企業経営へのインパクトについて解説	11月17日	小林史郎 氏	
	12	情報提供サービスの整備状況	グローバル化に適応するために、各国のプロジェクトで公的/私的なデータベースが構築されつつある。日本もくめて、企業が活用できるデータベースサービスの具体例を紹介	12月8日	市川芳明	
グリーン調達	13	グローバル化の担い手、グリーン調達の脅威	製品環境ポリシーに対応する最大の課題が、サプライチェーンに沿った情報収集であること、グローバル化を世界に波及している陰のプロモータであるグリーン調達の仕組み、IMDSの事例、ソニーショック, JGPSSI, IECのMD(Material Declaration)の標準化動向とも関連づけて解説する	12月15日	市川芳明	
情報開示とCSR	14	環境経営報告の法制化と国際標準	GRI(Global Reporting Initiative)に代表される環境情報開示の標準化動向、日本国内で法制化された環境報告の義務化について解説する	11月24日	小林史郎 氏	
	15	CSRという企業評価のグローバル化	Corporate Social Responsibilityは企業の評価を左右する国際的な基準になりつつある。国際標準化動向、およびSRI(社会責任投資)との関連で、企業経営へのインパクトについて解説する	12月1日	柄崎晃一 氏	